



事例紹介

5

●サービス業／福利厚生施設、鉄道関連施設等の清掃業務

## 株式会社メトロフルール

所在地：東京都江東区新砂1-5-1東京メトロ深川総合運動場体育館2階

資本金：1000万円（東京メトロ100%出資）

障害者雇用状況：25名（うち重度16名）



# 特例子会社で働く知的障害者たち 福利厚生施設等の清掃業務を通じた 本社社員との交流も好影響



## 社名の「花」に込められた願い

株式会社メトロフルールは、平成16年10月に設立された東京メトロ（東京地下鉄株式会社）100%出資の特例子会社（特例認定は平成17年4月）。平成16年に民営化され特殊法人時代と大きく環境が変わった東京メトロ。鉄道業では、障害者雇用に難しさがあるなか、障害者雇用の促進、自立支援を行い社会的責任を果たすことが同社設立のねらいです。現在、同社で働く障害者は25名（うち重度が16名）で、障害はいずれも知的障害です。

社名の「フルール」とはフランス語の「花」の意味。障害のあるスタッフが仕事を通じて花を咲かせ、やがて実を結び、地域社会に根ざしてほしいという願いが込められています。



## 働く障害者の姿が社員の意識改革に

スタッフ（障害者）の仕事内容は、東京メトロの体育館、社員独身アパート、および検車区施設の清掃など。

スタッフの1日は、朝9時20分の朝礼・点呼から始まります。初めのうちはチーフ（指導員）が点呼を行って

## プロフィール



### 堤谷 明子（つつみたにあきこ）さん

昭和45年生まれ 36歳  
平成17年1月入社 知的障害

明るくて人当たりのよい性格の堤谷さんは、スタッフに慕われ信頼されています。「友達がたくさんいて、楽しい職場です。定年までここで働きたいと思います」と、朗らかに笑います。



### 佐々木 晋一（ささきしんいち）さん

昭和60年生まれ 21歳  
平成17年1月入社 知的障害

物事にまじめに取り組む佐々木さんは、期待の星。「初めの2、3カ月は緊張しましたが、今はみんなといるのが楽しいです。将来は頑張ってチーフになりたいです」と、希望を語ります。



### 岡野 沙耶（おかのさやか）さん

昭和59年生まれ 22歳  
平成17年1月入社 知的障害

人なつこく、頑張り屋の岡野さんは、スタッフから「さやちゃん」と呼ばれ親しまれています。「汚れが取れてきれいになると嬉しいです」と、仕事の喜びを語ります。

### 江東区第三あすなろ作業所

### 中久喜 泉さん

作業所での福祉的就労と企業就労とは、障害者の意識に大きなギャップがあります。社会に出て働く勇気を持たずにいる方たちもいるのです。また、成長面での違いもあると実感させられた「事件」があります。私たちの作業所出身の岡野沙耶さんが仕事を終えて作業所に遊びに来たとき、いつの間にかいなくなったので探していると、「汚れていたから」と、自発的にトイレを清掃していたのです。以前の彼女にはなかったことで、就職を機に大きく成長したのだと感動しました。そんな姿は、後輩たちにも良い刺激となっています。



### 台東区心身障害者就労支援室

### 滝島 弘之さん

設立当初から他区支援機関と連携し支援に関わっています。スタッフ一人ひとりに着目し「社会人としての自立」を目指し育成していこうというメトロフルールの姿勢に、今後も積極的に協力したいと思っています。



### 特定非営利活動法人 WEL'S新木場 事務局

### 橋本 一豊さん

メトロフルールのように、1カ所で25名もの障害者を雇用している事業所は都内でもまれです。その点が、区を超えたネットワークを作りたいと考えていた私たちにとってもありがたかったことで、良い相乗効果が生まれました。現在、9区の関連機関出身の知的障害者がここに集まっています。設立からわずか1年ですが、メトロフルールはどんどんノウハウを蓄積されています。そうした知的障害者の育成、社会的自立に対する真摯な取り組みが、25名の皆さんのチームワークを生み出しているのだと思います。





検車区施設の食堂で清掃を行うスタッフ。同施設では他に更衣室、浴室などの清掃を行っている。



東京メトロ社員独身アパート「フィオーレ深川」(11階建て134戸)で、浴室清掃を行うスタッフ。笑顔と真心が、同社員にも伝わっている。

体育館の清掃をする堤谷さん。スタッフはここで朝礼・点呼後のラジオ体操も行う。

いましたが、1年間のスタッフの成長で、現在はスタッフ同士で点呼が行えるようになりました。次に、ラジオ体操とストレッチ、身だしなみの確認。その後、それぞれの作業場に移動しますが、互いに声をかけ合い、生き生きとした笑顔で仕事に向かう姿が印象的です。

各作業場では、東京メトロの社員と触れ合う場面もあります。「ありがとう」「お疲れさま」と声をかけられ、社会参加する喜びを感じ、自信とやる気につながって、成長していく様子が見られます。一方、東京メトロの社員は、障害者が真摯に清掃作業に取り組む姿を見て、「社員としての仕事に対する意識改革につながった」という声もあり、期待以上の相乗効果が生まれました。



### 広域ネットワーク形成の動きに合致

東京都にはこれまで、圏域の広さなどのため、区を超えた統括的な支援組織がない状況がありました。同社は設立準備を進める際、所管ハローワークから日本経済団体連合会障害者雇用相談室の紹介を得て、同室のアドバイザーから中野区障害者福祉事業団と、同事業団が設立したNPO法人・ウェルズ新木場の紹介を受け、相互のメリットを考慮し、タイアップして進めることとしました。都内に就労支援ネットワークを作ろうという動きと、うまくタイミングが合ったといえます。

今後の課題は、まずはさらにノウハウを蓄積することです。着実に実績を積みながら、障害者の潜在能力を引き出し、伸ばしていける職種への事業展開を図り、雇用の拡大を目指しています。これにより法定雇用率を達成(昨年実績1.54%、今年3月現在1.99%)し、将来的にはグループ適用も視野に入れています。また、グループ各社との相互理解を深めていくことも重要な課題です。

同社に就労したスタッフは、就労を機に社会的自立への自信と意欲を深めています。よい意味での家族的雰囲気の中で、チームワークや責任感が醸成されています。同社は、障害者が夢と希望を持って明るく楽しく元気に働くことができる会社を目指し、成長を続けています。

## 職場から



**障害があってもやれば  
スタッフの成長が  
私たちの気づきと成長に**

株式会社メトロフルール 総務部  
業務課長  
森戸 隆久(もりとたかひさ)さん

スタッフの成長が、私たちのこの上ない喜びです。たとえば岡野さん。彼女は感受性が強く、人一倍の努力家。採用前の委託訓練では、自分でゴム手袋がつけられず泣いていました。しかし「やめる?」と聞いても「嫌だ」といって訓練を続け、正月休みも家で練習したそうです。休み明け、一人でつけられて、「見て!」と両手を高く上げて見せてくれたときの笑顔は、きっと一生忘れられません。スタッフ全員に同様のエピソードがあります。「あきらめずやればよい」と気づかされ、私たちの方が成長させてもらっています。今後も、一人でも多くの障害者が社会に参加できるよう、サポートに努めたいと思います。



**初めは経験の面で不安がありましたが  
純粹さ、真摯な姿勢、笑顔に勇気づけられ  
人生観が変わる思いです**

株式会社メトロフルール 取締役  
細野 隆之(ほそのたかゆき)さん

採用にあたり、20歳~57歳(採用時)という年齢差が生じ、心配もありましたが、結果は上々でした。年長者は年少者の面倒を見たり、年少者は年長者を敬い、社会生活を送るうえでの基礎を学ぶなど、思わぬ効果がありました。初めは、どう接すればよいのかという不安でいっぱいでした。しかし、彼らの純粹さ、真摯に仕事に取り組む姿、笑顔に勇気づけられ、不安は一掃されました。奥が深い世界で、勉強の毎日です。これからも行政、支援機関などと連携し、障害者の雇用促進・自立支援に取り組んでいきたいと思っています。